

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>ICT 基盤を社会基盤として考えるとき、今回の「基本的方向性」に対して以下の2点の考慮をお願いしたいと思います。</p> <p>1)他の社会基盤(水道, エネルギー供給系, 道路や交通系など)との類似点と相違点の再認識</p> <p>他の社会基盤と異なり, ICT は人類史上極めて大きな文化的・社会的影響力を持った社会基盤であり, その発展の速度も量的にも地域的にも過去20年で数百万倍から数億倍という人類がかつて経験しなかった変化を続けている。世界的な産業・経済基盤を現在進行形で大きく変えている技術に対し, これまでの社会基盤整備における手法をそのまま適用する事の可否を議論すべきである。技術の現状だけでなく, 将来の発展性を考慮した長期的視野の議論が必要であり, 政府のはたすべき役割は, そのような議論の中で考える必要がある。</p> <p>2)国際的な産業競争の中での日本としての産業戦略</p> <p>ICT 特に世界に冠たるネットワークの構築・維持に関する技術は, 衰え行く我が国の情報関連産業の中で, 数少ない国際競争力を持った技術である。我が国一国の市場を見るのではなく, 世界市場に対する実験場としての国内市場という考え方で, 地球規模の事業戦略を考える必要がある。将来, 光の道構想を世界市場に展開するときの事を考えた戦略のなかでの議論が重要であり, 国内の短期的な国民満足度にのみ注目すると, 大きな国益の損失につながると考える。</p> <p>以上の2点を考慮した場合, 未整備エリアに対する普及は, 過疎地域における持続可能なビジネスモデルを考える絶好の機会であり, 国際的な産業戦略に役立つようなモデル作りを考え, 民間の自由な発想で複数のトライアルが可能な環境を用意する事が政府としての役割ではないかと考えます。問題を, 国内の格差解消等という話に矮小化せず, 今後のさらなる技術発展の余地を活かして, 我が国の産業政策と国際展開を視野に入れた構想を作られるよう, 切に希望いたします。</p>

2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。

「基本的方向性」を読む限りにおいて、議論の順番が逆転しているように感じます。従来の社会基盤に対し、ICTはその急速な発展により、下位の基盤整備主導ではなく上位のアプリケーションやコンテンツ主導さらにはその上位のICTを利用した社会や組織の体制の変化に主導されて普及されてきたと考えてもいいと思います。これは、近年の検索サービスや携帯電話の爆発的な普及をあげるだけでも理解できると思います。ネットワークインフラがある程度まで整備されると、問題はアプリケーション層や社会体制層の方に移り、上位層が引っ張る形で基盤整備が需要に押されて伸びているのが世界の趨勢です。我が国だけが例外であり続けるとは考えられません。

議論すべきはアプリケーション層や社会体制層の問題であり、それを基盤整備を行っているNTTや他の通信事業者の事業体制問題として議論しているのは、本質から外れているように思います。まずは、「どのような社会を構築するのか?」という基本問題のコンセンサスを創り、そのためには、「どのような社会体制(政府のあり方も含む)が必要か?」、「どのようなサービスが求められるか?」を議論すべきであると考えます。ICT基盤の運用体制については、上位の議論がはっきりし、多くの産業人が目標を持ってブロードバンドを活かしたサービスが提案されるようになった後で議論すべき問題であると思います。新しいサービスの提案を我が国でできないのであれば、すでに我が国のICT産業は国際競争に負けているとしか言えないと思います。若い人たちの自由な発想による新しいサービスやアプリケーションの提案と社会の既得権益者による妨害を減らす事が、政府としての大きな役割と考えます。